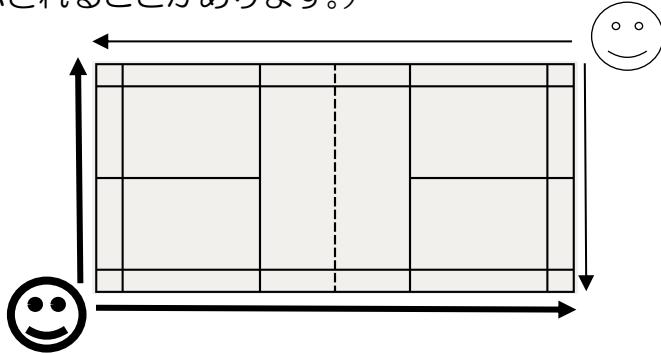


線審心得

1 イスの位置を確認

- ダブルス・シングルスそれぞれのラインに適した場所にイスがあるか確認しましょう。
- イスの下に雑巾があるか（または近くにモップがあるか）を確認してください。（モップ掛けを主審から指示されることがあります。）



2 正確に・冷静に ジャッジ

★シャトルのどの部分でも最初に着いた地点でイン・アウトをジャッジする★

（通常はコルクが先に着くので、飛んできたシャトルのどこがどこに着地するかを注視する。）

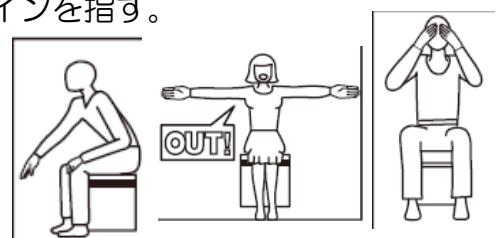
- バックバウンダーラインとサイドラインに、体を入れてシャトルを見るために、イスにあまり腰深く座らない。（プレイヤーがサービス、レシーブの態勢に入ったら、ヒジを膝の上に置かず、背もたれから背中を離し、ジャッジに備える。）
- 選手を追うのではなく、シャトルから目を離さない。
- 明らかなイン・アウトでも必ず合図を正しく行う。

主審とアイコンタクトをとってから合図を終えましょう。

イン：無言で、手のひらを下に下げ片手で担当ラインを指す。

アウト：「アウト」と発声し、両腕を水平に開く。

※落下地点が見えなかった場合：両目を手で覆う。



- シャトルがコート面に接してからジャッジする。

※ジャッジは、素早い判断が必要だが、きわどいジャッジの際はあわてることなく、自分の判断が決まってからはっきりとジャッジを示す。

- 首を傾げたりすることなく、堂々とジャッジする。

- プレーヤー・コーチ・観客の言動に惑わされない。

※プレーヤーがジャッジについて質問を含め、話しかけてきても答えない。「主審にお聞きください」と促す。

- 主審からのコートの汗拭きやモップ掛けの指示にすぐ対応する。

- シャトルがプレーヤーに当たった時など、主審の判定の前にコールや合図をしない。